

## リストが改善された

IAU(国際天文連合)のリストが3月から改定された。今までは存在すら疑わしい流星群が何百個もあったが、今回はかなり整理された。前進したと評価したい。このリストは編集者が述べているように、写真、動画撮影、電波観測の結果をもとにしている。眼視観測は反映されていない。私はそれには敢えて反論しないが、人間が確認して初めて流星群が確定するものだと考えているので毎月のように眼視観測で活動をチェックしている。

今回(3月分)からは IAU が確実と判定した Established shower もあわせて確認評価してみた。

いつものように国内からは見えない南天に位置するものや、昼間に活動する流星群をのぞいた 17 個群を対象にして、河越 13 夜 2800 分、斉藤 11 夜 2430 分、延 24 夜 5230 分、散在流星 92 個のデータを分析した。その結果、**確実 4 個群、弱い活動 1 個群**を確認した(別表参照)。残りの 12 個群は全く活動しなかったか、活動しても散在流星に埋もれて確認できなかった。

## 中・下旬のおとめ座とへび座流星群を確認

別表の IAU No.123 の北 3 月おとめ群(直訳)と IAU No.11 の  $\eta$  おとめ群はみかけ上は同じ流星群である。これを厳密に個々に分ける意味はないと思われる。

もともとのおとめ座流星群は小規模な流星群の集団なので、そのひとつひとつが時々活発になると今回のように同じような時期、位置に観測される。筆者の長年の観測では No.123 も No.11 も発表されている数値は実際とはいくらか異なっている。その理由は断片的な写真観測などが原因である。毎夜毎夜同時流星を捉え軌道計算する仕事はいくら機械化されていても簡単ではない。近い将来にこの仕事が効率的に実施されれば、今回の改訂のようにリストがより正確なものになると思われる。別表の破線のセルはこの IAU 記載と違うところである。

筆者は 4 月末までおとめ群を追跡してその全容をまとめるつもりだが、小さく区分せず全おとめ群として包括的に把握したい。

一方、ふたつのへび座流星群( $\zeta$  群と  $\kappa$  群)は別群である。 $\zeta$  群はへび座尾部、 $\kappa$  群は頭部に位置している。筆者のように経験の永い観測者は一時間観測しても群流星を見ないことを

